

2023 年度

事業報告書

自 2023 年 4 月 1 日

至 2024 年 3 月 31 日

社会福祉法人 えのき会

京都市伏見区桃山町山ノ下 4 4 番地 8

社会福祉法人えのき会 2023 年度事業報告

1. 役員 の 状 況

【理 事】 理事 7 名 監事 2 名

役職名	氏 名	任 期
理事長	古川 末子	2023 年 6 月 6 日～2025 年度定時評議員会終結時
常務理事	熊谷 秀司	2023 年 12 月 1 日～2025 年度定時評議員会終結時
理事	渡辺 登志子	2023 年 6 月 6 日～2025 年度定時評議員会終結時
理事	岸本 栄嗣	2023 年 6 月 6 日～2025 年度定時評議員会終結時
理事	西村 清忠	2023 年 6 月 6 日～2025 年度定時評議員会終結時
理事	岡 千栄子	2023 年 6 月 6 日～2025 年度定時評議員会終結時
理事	田中 耕一郎	2023 年 12 月 1 日～2025 年度定時評議員会終結時
監事	橋本 雅寛	2023 年 6 月 6 日～2025 年度定時評議員会終結時
監事	荻原 卓司	2023 年 6 月 6 日～2025 年度定時評議員会終結時

【評 議 員】 評議員 8 名

評議員	小林 幸次郎	2021 年 6 月 10 日～2025 年度定時評議員会終結時
評議員	小山 敏枝	2021 年 6 月 10 日～2025 年度定時評議員会終結時
評議員	田中 聖	2021 年 6 月 10 日～2025 年度定時評議員会終結時
評議員	下山 さゑ子	2021 年 6 月 10 日～2025 年度定時評議員会終結時
評議員	三矢 由貴子	2021 年 6 月 10 日～2025 年度定時評議員会終結時
評議員	木村 幸絵	2021 年 6 月 10 日～2025 年度定時評議員会終結時
評議員	田中 美子	2022 年 7 月 1 日～2025 年度定時評議員会終結時
評議員	大西 雅也	2023 年 11 月 16 日～2025 年度定時評議員会終結時

【評議員選任・解任委員】

選解委員	高橋 陽子	2021 年 6 月 17 日～2024 年度定時評議員会終結時
選解委員	橋本 雅寛	2021 年 6 月 17 日～2024 年度定時評議員会終結時
選解委員	西山 竜	2020 年 6 月 29 日～2024 年度定時評議員会終結時

【第三者苦情解決委員】

苦情解決	山田 尋志	2023年10月26日～2025年度定時評議員会終結時
苦情解決	土田 文子	2023年5月22日～2025年度定時評議員会終結時

2. 理事会の開催状況

2023年度第1回理事会

開催年月日：2023年5月22日 14時00分～14時30分

開催場所 さくらの家西町 3階研修センター
京都市伏見区西町8番地

出席者氏名

理事 古川末子、村上高久（統括部長兼務）

渡辺登志子、西村清忠、岡千栄子

理事総数6名／5名出席

欠席：岸本栄嗣

監事 荻原卓司

橋本雅寛

事務局 村上高久

熊谷秀司

西山竜（議事録作成）

決議事項 第1号議案 2022年度事業報告について

第2号議案 2022年収支決算報告（案）について

（社会福祉充実残高算定結果の報告を含む）

監事監査報告

第3号議案 苦情解決委員会第三者委員の選任について

第4号議案 役員候補者選任について

第5号議案 定時評議員会の招集について

2023年度第2回理事会

開催年月日：2023年6月16日 14時00分～15時10分

開催場所 さくらの家西町 研修センター

出席者氏名

理事 古川末子、村上高久（統括部長兼務）

渡辺登志子、岡千栄子、西村清忠、岸本栄嗣

理事総数6名／全員出席

監事 荻原卓司（オンライン出席）

橋本雅寛

理事後任者 岡千栄子

事務局 村上高久
熊谷秀司
西山竜（議事録作成）
決議事項 第1号議案 理事長選任について
第2号議案 常務理事選任について
第3号議案 執行役員選任について

2023年度第3回理事会

開催年月日：2023年10月26日 14時00分～14時50分

開催場所 さくらの家西町 研修センター

出席者氏名

理事 古川末子、村上高久（統括部長兼務）
渡辺登志子、岡千栄子、西村清忠、岸本栄嗣
理事総数6名／全員出席

監事 荻原卓司
橋本雅寛

理事後任者 岡千栄子

事務局 村上高久
熊谷秀司
西山竜（議事録作成）

決議事項 第1号議案 管理職人事について
第2号議案 理事候補者田中耕一郎の選任について
第3号議案 理事候補者熊谷秀司の選任について
第4号議案 評議員会の招集について
第5号議案 評議員候補者の選任について
第6号議案 評議員選任・解任委員会の招集について
第7号議案 苦情解決第三者委員の選任について

報告事項 職務執行理事からの職務執行状況の報告

2023年度第4回理事会

開催日時 2023年12月1日 14時00分～14時10分

開催場所 さくらの家西町 研修センター

出席者氏名

理事 古川末子、渡辺登志子、岡千栄子、西村清忠、岸本栄嗣
田中耕一郎、熊谷秀司
理事総数7名／全員出席

監事 荻原卓司
橋本雅寛

事務局 熊谷秀司

西山竜（議事録）
決議事項 第1号議案 常務理事の互選について
報告事項 大西評議員の就任について

2023年度第5回理事会（書面決議）

理事会の決議があったものとみなされた日：2023年3月5日
第1号議案 重要な財産の譲受（寄付契約の締結）について

2023年度第6回理事会

開催日時 2024年3月22日 14時00分～14時45分
開催場所 さくらの家西町 3階研修センター
出席者氏名
理事 古川末子、熊谷秀司、渡辺登志子、西村清忠、田中耕一郎
理事総数7名／5名出席
欠席 岡千栄子、岸本栄嗣
監事 荻原卓司
橋本雅寛
事務局 熊谷秀司
西山竜（議事録）
決議事項 第1号議案 2023年度補正予算案について
第2号議案 2024年度事業計画案について
第3号議案 2024年度予算案について
第4号議案 土地の寄付に伴う定款変更（基本財産の変更）について
第5号議案 評議員会の招集について
報告事項 人事について

3. 評議員会の開催状況

2023年度定時評議員会

開催日時 2023年6月6日 14時00分～14時40分
開催場所 さくらの家西町 3階会議室
出席者氏名
評議員 小林幸次郎、下山さゑ子、小山敏江、三矢由貴子、木村幸絵、田中美子
総数7名／6名出席
欠席：田中聖
質疑応答者・報告 理事長 古川末子
統括部長 村上高久
事務長 熊谷秀司
議事録作成 事務局 西山竜

決議事項 第1号議案 2022年度収支決算報告について
(社会福祉充実残高算定結果の報告含む)
第2号議案 理事の選任について
報告事項 2022年度事業報告について
苦情解決第三者委員選任について

2023年度第2回評議員会

開催日時 2023年11月6日 14時00分～14時15分
出席者氏名
評議員 下山さゑ子、小山敏江、三矢由貴子、木村幸絵、田中美子
オンライン出席：田中聖
総数7名／6名出席
欠席：小林幸次郎
質疑応答者・報告 理事長 古川末子
統括部長 村上高久
事務長 熊谷秀司
議事録作成 事務局 西山竜
決議事項 第1号議案 理事 田中耕一郎 の選任について
第2号議案 理事 熊谷秀司 の選任について
報告事項 評議員定数の変更について
苦情解決第三者委員の選任について

2023年度第3回評議員会

開催日時 2024年3月28日 14時00分～14時25分
開催場所 さくらの家西町 3階研修センター
出席者氏名
評議員 小林幸次郎、木村幸絵、三矢由貴子、田中聖、下山さゑ子、小山敏江、田中美子、
大西雅也
総数8名／7名出席
欠席：小山敏江
質疑応答者・報告 理事長 古川末子
事務長 熊谷秀司
議事録作成 事務局 西山竜
決議事項 第1号議案 2023年度補正予算について
第2号議案 2024年度事業計画について
第3号議案 2024年度予算について
第4号議案 土地の寄付に伴う定款変更（基本財産の変更）
報告事項 人事について

4. 法人会議・職員研修報告

◇法人会議

- ・執行役員会 全 11 回開催 理事長・執行役員理事・統括部長・所長・副所長・事務長
2023 年 4/12、5/10、6/14、7/12、9/13、10/11、11/10、12/15
2024 年 1/12、2/14、3/7
- ・事業運営会議（毎月） 統括部長・所長・主任等の事業管理者会議
- ・法人合同職員会議（5 月、3 月）
- ・虐待防止委員会（年 5 回） 森下委員長 他 4 名
- ・働きやすさ委員会（年 6 回） 森下委員長 他 6 名
- ・マニュアル編集委員会（年 6 回） 高尾委員長 他 8 名
- ・リスク対策委員会（毎月） 奥村委員長 他 5 名
- ・研修委員会（年 8 回） 平井委員長 他 4 名
- ・支援計画学習委員会（年 2 回） 清水委員長 他 3 名
- ・事業継続計画（年 7 回） 清水委員長 他 2 名

◇職員研修会

第一回 法人研修会

日 時：2023 年 5 月 28 日 15：15～16：15

場 所：えのき研修センター

内 容 「権利擁護研修振り返り研修」

3 月に開催した権利擁護研修の内容を振り返り、グループワークにて研修内容を受けて実践していることの共有・発表

参加人数：41 名

第二回 法人研修会

日 時：2024 年 3 月 10 日（日）9：30～12：00

場 所：えのき研修センター

内 容 「権利擁護研修」

参加人数：49 名

第一部 田中玲美さんのお母様より成育歴を中心にご家族が経験されたこと、感じられたことをお話いただく。

講 師：田中美子（田中玲美さんご家族）

第二部 NHK 戦争証言アーカイブ（2015）第 6 回 障害者福祉～共に暮らせる社会を求めて～視聴

：世界と日本の障害者権利擁護の歴史や運動に関する当事者のインタビューを視聴

◇安全運転講座

日 時：2023 年 3 月 10 日（日）16：30～17：30

参加者：16名（公用車運転業務従事者）

講師：安全運転管理者 西山主任

◇普通救命救急講習会

日時：2023年3月10日（日）8：45～9：45、13：30～15：30

場所：えのき研修センター

参加者：32名

講師：醍醐消防分署

◇2023年採用新任職員研修

日時：2024年4/1から開催（来年度事業報告に記載）

◇採用について

採用者数と退職者数 2023.4.2～2024.4.1

職種別

職種	採用者数	退職者数
生活支援員	6（新卒：1 既卒：5）	11
看護師	0	0
世話人	3	2
運転手	1	0
役員	0	1
事務員	0	0

雇用形態別

雇用形態	採用者数	退職者数	2023/4/1 職員数
常勤職員	4	11	75
非常勤職員	6	3	15
合計	10	14	90

新卒採用では、昨年度に発生した虐待案件のため、きょうと福祉人材育認証制度の認証が停止され、本年度は京都市が開催する合同説明会等に参加することが出来なかった。

そのため有料のフェアに参加をしたり、また大学への訪問（花園大学・京都先端科学大学・大阪人間科学大学等）を行ったりと、採用担当者は学生と出会う機会を増やす手立てを講じていたのだが、新卒としての採用は1名のみとなった。通常就職活動は、近年は3回生の秋から行うため、それを鑑みると来年度の採用活動としても、厳しい状況はそう変わらないだろう。

中途採用も厳しい状況は変わらず、生活支援員の常勤職員の採用は3名で、そのうち1名が今年度の4月1日付である。当年のみを考えると、退職者に比して物足りない数である。3月以降には非常勤職員（特に夜勤を担う職員）を数名採用したが、全体をみると人員不足の感は否めない。

退職者は生活支援員11人と多い数であり、そこにはベテラン・中堅の職員が多く含まれていた。

2022 年度には新卒も含め多くの職員が入職しているのだが、まだまだ全体的に人手不足のため、その分個人に負担がかかる状況である。そのため、新入職員たちの育成に目処がつき次第、また新たに中途職員を採用する必要があるだろう。

5. 法人本部報告

◇人との接触や行動が制限され、暮らしを大きく変えた新型コロナウイルス感染症が5月に、季節性インフルエンザと同じ第5類扱いとなった。5類に移行したといっても感染力は、これまでと変わらず、介護職員の心身の負担はより増したと思われる。利用者ご家族から発熱や体調不良等の連絡に緊張が走ることもあり、気の休まらない状況が続いた。この1年において、生活介護（デイサービス）、グループホームの各利用者、介護職員にコロナ陽性者が次々にでたが、その対応には、これまでの経験を活かすことができ、感染爆発には至らず防ぐことができた。その後は、少しずつ落ち着き、平常に戻りつつある。

◇デイサービスのプログラムの一環として、利用者さんが職員にサポートされて作り上げた作品を集めた展示会、『さくら西町作品展』を開催。また、デイサービスのようすを撮った写真やビデオ、夜間のようすを知りたいという声があり、グループホームの写真等を集めスライドショーを観てもらった。これまで、コロナ禍でご家族ともゆっくり対話ができなかったが、これを機に、少しずつ取り戻していければと思う。ご家族さんからも好評価を頂いた。

◇夜勤や早出、遅出等の勤務時間が一定ではない職場では、特に女性職員の体調不良の問題があがってくる。改善策を出さないまましていると、「辞職」という一番望まない結果に繋がる。問題の一例として、今年の新卒者の面接時、責任者から「この1年間、夜勤はありません」と明言したにもかかわらず、そのあとGH夜勤者の一人として、シフトに組み込まれた。結果、不眠が重なり体調を崩していった。この問題をきっかけに『女子会』という名前で、同僚や先輩職員と気軽に話ができる機会を持った。同寮、先輩職員の経験談、看護師からのアドバイスも含め、初めてのフリートークの場であったが、出席した女性職員に好評であった。今後も継続希望の声が出ている。

◇今年度は、コロナ禍の影響が大きく残る1年であったが、収益の大きい落ち込みも少ない1年であった。そのなかで言える事は、一人の利用者さんの動向（長期欠席、入院、他法人へ移籍等々）が、法人の収入に少なからず影響を及ぼすことになる。障害福祉サービスを提供する側として、利用者さん、そのご家族を気遣い、えのき会が心の拠り所となる場所になっていければと思う。「えのきに来たい。職員さんともっと話をしたい」等、思ってもらえるような居場所づくり。そのための皆で課題を考えていけたらと思う。

◇6年目となったフードドライブですが、近くでカレー屋さんを経営されているレストランのマスターが、FDを対象にした食事会を定期的で開催されている。えのき会が集めた食品を持っていくと、そこに集まる親や子どもさんたちに必要な食品を持ち帰ってもらっている。子ども食堂が9000カ所余りと増えているが、今では、「子どもの貧困対策」と「地域交流拠点」の意味合いも兼ねた運営となっていると言われる。コロナが収束しつつある今、地域貢献の一つである「フードドライブ」を、地域の中で大きな輪になるよう、関わる人を増やしていくことが次の課題である。

生活介護事業 事業報告

【総括】

3つの事業所に分かれてから3年目となり、各事業所の特色がはっきり出始め、支援する職員もほぼ固定化になっていることもあり、それぞれの事業所で落ち着いて支援を提供することができた。その反面、3つの事業所の利用者が集まる土曜日のデイサービスは、担当職員以外は利用者の状況把握が難しい、朝夕の送迎時に慣れていない職員が関わりをおこなうといった課題が生じ、各事業所間で柔軟に対応できる職員の育成が難しい状況となった。土曜日のデイサービスに関しては、登録利用者数も増え、希望される方も多く、平日の支援にも影響がみられ、各ご家庭にお便りを配布し、利用回数の制限をお願いすることとなった。

情報共有の面では、文章での引き継ぎを継続しながら、5月頃からデスクネットの利用を取り入れた。利用者の欠席連絡や変更事項をデスクネットに登録することで、どの事業所にも情報が伝わり、それをデータに打ち込み反映することで3つの事業所間で迅速に情報共有ができるようになった。

取り組みの面では3つの事業所をZOOMで繋いでレクリエーションすることを継続し、3月にはさくらの家（従たる事業所）がメインとなり、作品展を開催することができた。保護者の方にも作品やスライドショーを見ていただく良い機会となり、受付を担当したさくらの家（従たる事業所）の利用者にとってもご家族の来所が嬉しい時間となった。榎の家やさくらの家（主たる事業所）も参加し、作品展当日は西町まで各事業所から見学に行き利用者同士が交流できる機会にも繋がった。

稼働率に関しては、ホームのコロナ感染や利用者の入所、入院等もあり、目標としていた85%を超えることは厳しい状況であった。

また、コロナ感染症が5類へと移行したが、感染予防の対策は継続しておこない、デイ中に発熱があり感染が認められた方もおられたが、大きな感染の広がりは防ぐことができた。午前、午後のバイタル確認は継続し、利用者の体調の変化に注意しながら、徐々に戸外への外出や感覚活動等の取り組みを増やすことができていた。

榎の家 事業報告

【総括】

活動面においては、ミーティング時に意見を出し合い、チームで取り組むことができてきている。今年度は北堀公園や淀城公園への外出をおこない、利用者の気分転換を図ったり天候が良いときはテラスで園芸活動をおこない、実った野菜を利用者の方と一緒に収穫するという取り組みをおこなうことができた。また、芸術祭に向けて、今まで作ってきた染め物の布を利用し、利用者・職員と一緒に取り組んで制作して出展し、みやこめっせに見に行くという一連の流れを作ることができた。継続して全体での取り組み内容を充実させることで、利用者のペースで参加することを大事にしながら、少しずつ楽しめることを模索することに繋がってきている。一方で、ご家族のニーズにもあるストレッチや身体を緩める取り組みが後回しになることも多く、9月には榎の家で地域リハビリテーション推進センターの訪問研修を受講し、学びを深めているが実践に活かさきれていない課題がある。学びを深めることを継続しながら、身体を緩める必要性を理解

し、取り組む時間を検討していきたい。

職員体制については、新たに2名の新任職員が配属され、夏ごろには体制的に落ち着きつつあったが、冬にかけて育休に入ったり、家庭の事情で退職する職員がおり、継続した体制を維持することが困難な状況ではあったが、少ない職員数の中で声を掛け合い柔軟に支援する職員もみられている。

チームで同じ方向性を持ち、協力しながら日中の過ごしを活性化していけるように努め、利用者との継続的な関わりの中で理解を深め、取り組み、評価を積み重ね、職員間での意見交換や共有を行うことで、利用者支援に向けた職員の質の向上を図っていきたい。

1. 職員体制

所長1名 サービス管理責任者1名 看護師：常勤1名・非常勤2名（兼務）

支援職員一日平均 14.4名以上（生活支援員13.1名 看護師1.3名）

（基準上の必要職員数9.9名：看護師含む）

事務員1名（兼務） 運転手1名 栄養士2名 調理員1名 医師1名（嘱託）

2. 利用状況

登録名 47名（3月末） 男性18名 女性29名

年間開所日数 292日 年間延べ利用者数 4,861名（昨年4,654名 一昨年4,545名）

一日平均利用者数 16.6名（昨年16名 一昨年16.6名）

3. 主な活動

1) 外出先

- ・事業所周辺散歩 適宜
- ・淀城公園外出
- ・みやこめっせ（京都とっておき芸術祭鑑賞）
- ・醍醐図書館

2) 主なレクリエーション活動

- ・園芸・音楽療法・誕生日会・アルミ缶リサイクル・スノーズレン・図書館外出
- ・季節に応じたイベント・ピアノライブ・ギターライブ・朗読会等

3) 避難訓練 11月参加者 36名（内、職員 19名）

3月参加者 37名（内、職員 20名）

4. アクシデント

- ・与薬関連 2件
- ・転倒 2件
- ・紛失・物品破損 5件
- ・他傷 4件
- ・怪我 2件
- ・誤食 2件

- ・物品管理 1件
- ・介護 6件（事業所間の移動時に手を離れた際、走っていかれる、吸入器を2回セットしてしまう等）
- ・見守り 1件
- ・その他 5件（古い発作対応のデータ駐車場に落ちていた、送迎車のリフトが動かない等）

以上 30 件

※昨年度に比べると5件減り、減少傾向。服薬管理に関してはミスに繋がらないように、確認する職員を決め2段階でチェックをおこなうことにより、大きなアクシデントを避けることができている。また、物品管理に関しても持ち帰り忘れがないように給食袋の預かり方法を検討し、未然に防げるように努めている。昨年度、職員の配置が薄くなってしまう時間帯に利用者が他の利用者を掴んでしまう等の他傷が数件あったが、常に利用者の距離感に注意し、職員間で見守りの声かけを意識することで今年度はほとんどみられていない。

その一方で送迎時に事業者間を移動の際、利用者から少し離れた時に1人で歩いていかれるアクシデントや土曜デイの際、3つの事業所の利用者が集まることから、十分にその利用者の状況を把握できる職員が少なく、SPO2の低下に気づくのが遅くなってしまうアクシデントがあった。少しタイミングが遅ければ命に関わるような大きなアクシデントに繋がることを理解し、定期的なリスクの振り返りをおこなっていききたい。

さくらの家 事業報告

【総括】

さくら、西町ともに今年度は職員体制に大きく変化がなく、一定の安定感をもってスタートすることができた。途中、退職や異動もあったが、他職員が固定的に配置されていることもあり互いにフォローしあえる環境であった。そのため、活動内容や取り組みに注視することができ、新たな発展や課題の発見につながっている。利用者に沿った取り組みの充足にむけて、来年度も課題を整理しつつ、着実に実施するようしていきたい。

『主たる事業所』

医療的ケアでは、大きなトラブルなく支援ができた。第三号研修を受けた職員に医療的ケアの引継ぎを実施していきたかったが、予定通りには進まなかった。

入浴では、大きなトラブルもなく支援は実施できている。一日の利用人数が多い事から流動的な動きも多く、入浴時に何かいい雰囲気は作れないかと、入浴場でも使用できるスピーカーを購入し、音楽をかけながら入浴を実施した。オルゴールの音色やカフェミュージックなどジャンルは様々ではあったが、湯船につかっている利用者の表情からは聴いてほっこりしているような印象であった。さくらの家の建物が10年経過している事もあり、計画的に機械浴の修繕を検討していく必要がでてきている。今後も利用者に安心して入浴してもらえるよう、導入する機械浴を職員と話し合っ決めていきたい。

活動では、誕生日会、音楽活動、季節行事は事前に職員と相談しながら実施する事ができた。少しの時間でも気候の良い時には散歩に出かける機会も増えた。外に出ると笑顔になる利用者も多い事から継続的に取り組んでいきたい。一方で、ストレッチの時間の確保が難しく、取り組みできていなかった。ご家族様からはストレッチの希望も多く、継続的に実施できるようにストレッチに必

要な物品等そろえて実施していきたい。

環境面では、新しくリフトを購入し、職員の腰痛軽減にも取り組む事ができた。

『従たる事業所・西町』

今年度は、配置職員が固定化されてきており、利用者との関係性構築や日々の変化等の把握がしやすく、利用者が安心して過ごせる環境が整備されつつあった。一方で、利用者の接遇に対する課題も見え、定期ミーティングの場で話し合いをすることもあった。今後、チームとして共通認識をもち、利用者とのどのように関わり支援していけるのか、振り返って確認しあう機会を設けていく必要がある。また障害特性の理解の促進として、いままで研修を受ける機会が少なかった障害分野についても外部研修に参加することができた。今後も、専門的な知識やスキルを学ぶ機会を継続してもち、利用者がその人らしく楽しめるようにできる職員集団となるよう努めていきたい。

ニーズの再確認については、懇談時に担当職員と直接聞き取りすることで、利用者の新たな支援の広がりや取り組みにつながる事ができた。しかし、懇談が実施できた利用者は少なく、職員不足と懇談の日程調整までできなかったのが要因である。次年度は、確実に実施できるよう計画性をもって取り組むようにしていきたい。

活動については、今年度は3年ぶりに1日外出を実施することができた。初めて参加する職員も多く、普段の利用者と違う姿も知りえることができ、実りあるものとなった。また、初めての取り組みとして作品展を3月に実施できた。作品展の準備、当日の受付等、利用者と一緒に取り組むことで、充足感や達成感を感じていただけたのではないかと。地域交流につながることも視野に入れ、次年度以降も継続していける取り組みのひとつにしていきたい。

地域交流については、ポスティングは行っていない。ベルマーク回収や仕分け作業、アルミ缶リサイクルは定期的実施できていたが内々での活動であった。3月に藤城小学校へベルマークを届けに行くことはできた。

1. 職員体制

所長 1名 副所長兼サービス管理責任者 1名 看護師：常勤 1名・非常勤 3名（兼務）

支援職員 1日 13.5名以上（生活支援員 11.2名 看護師 2.3名）

（基準上の必要職員数 7名；看護師含む）

事務員 1名（常勤） 運転手 1名 栄養士 2名 医師 1名（嘱託）

2. 利用状況

登録 37名（3月末） 男性 14名 女性 23名

年間開所日数 242日 年間延べ利用者数 4,101名（昨年 4,230 一昨年 4,147名）

一日平均利用者数 16.9名（昨年 17.4名、一昨年 17.2名）

3. 主な活動

1) 外出先

『従たる事業所・西町』

4月 5月 7月 10月 洛南イオン(イエローキャンペーン)

11月 京都鉄道博物館 12月 みやこめっせ 芸術祭観賞 3月 藤城小学校
毎月 醍醐図書館

2) 主なレクリエーション活動

『従たる事業所・西町』

- ・紙すき・音楽療法・アルミ缶リサイクル・創作活動・季節に応じたイベントレクリエーション
- ・テラスでのプール
- ・作品展(3月)

3) 避難訓練

『主たる事業所』

10月実施 参加者 16名 (内、職員 7名)

『従たる事業所・西町』

10月実施 参加者 21名 (内、職員 13名)

※2024年3月は見送り翌4月に実施へ

4. アクシデント

『主たる事業所』

- ・医療的ケア 1件 (胃ろうボタン抜去)
- ・送迎 1件 (乗せ忘れ)
- ・物品管理 2件 (私物破損 1件、持ち帰り忘れ 1件、)
- ・介護 4件 (怪我 2件パーテーション転倒、水分準備間違い)

以上 8件

※アクシデント件数は少なかったが、毎年度、物品管理に関してのアクシデントは上がっている。物品管理では、利用者の給食袋や水筒の置き場所など定まっていなかった事から、それぞれにかごを用意してそこに収納するように改善した。それ以降は忘れ物等防ぐ事ができた。

送迎時、利用者の名前の聞き間違えで送迎に乗らずに出発してしまうと言う事が起きた。それ以降は利用者の名前は苗字で呼び運転手と添乗者と確認するように努めた。

『従たる事業所・西町』

- ・怪我 14件 (転倒 4件、他傷 9件、他 1件)
- ・物品管理・物損 3件
- ・送迎関連 2件
- ・食事・与薬関連 4件
- ・その他 2件 (誤食 1件、衛生管理 1件) 以上 25件

*同じ利用者による他傷(職員も含む)が複数件あり、利用者同士の関係性や行動特性の理解、環境面の配慮ができていなかったことが背景要因に挙げられる。また見守りの手薄な時間帯に多く起こっていることから、確実に実施できる再発防止策の検討が必要である。前年度に荷物移動のインシデントが多かった件については、マニュアルの整備と職員が固定して用意することで一定の改善が見られた。

共通事項.

1. 主な派遣研修・会議等

- ・職員会議（2回／年）
- ・法人研修（5月・11月・3月）

2. 利用時間

- ◇榎の家 月曜日～土曜日（年末年始・お盆・祝日を除く9時40分～15時40分）
- ◇さくらの家 月曜日～金曜日（年末年始・お盆・祝日を除く9時40分～15時40分）

3. 一日の予定

送迎→到着(9:40)→朝の会→午前の活動→昼食・休憩→午後の活動→送迎(15:40)→各家庭

4. 福祉体験実習・施設見学等の受入

10月 呉竹総合支援学校より2名(保護者1名、先生1名)

5. その他

アルミ缶リサイクル活動の売上金については、利用者全員に12月のクリスマスプレゼントとして名前入りエコバッグを配布した。

共同生活援助事業 事業報告

【総括】

職員のスプレングスを生かしたチーム作りに関して

主任、リーダーを中心に若年層、中堅職員の声をすくい上げ、必要に応じて管理職出席の会議にて対応を協議できた。また、課題だけでなく、職員から支援のアイデアなども募ることができるようになった。今後においてもより風通しのよい職場を目指し、利用者によってもよい場所となるよう取り組む。

一方で職員に対するフォロー体制が不十分な場面も見受けられた。上司、職場のフォローと共に職員同士が苦手を補えあえるような体制作りが課題と言える。

ハックベリー・ベル間の連携について

グループウェアの導入により以前より細やかに両ホームの情報が共有できるようになった。また、共有すべき課題についても両ホームの主任、リーダー間にて相談、対応がなされており、十分な連携が取れていた。

ご家族との懇談について

コロナ禍により中断していたご家族との懇談を再開できた。利用者の加齢による変化と合わせてご家族の加齢による変化や親亡き後の生活に焦点を当てた話も少しずつできてきている。一方でホーム合同での懇談会の開催などご家族とハックベリー、ベルを合わせたホーム部門との議論や目的の共有などが実現できておらず課題が残る。

外出等の余暇について

新型コロナウイルス感染症の5類引き下げを受けて、一日外出を再開。全員一緒ではないが小グループでUSJに行ったり、カラオケ等と楽しく過ごせたと感じている。外出ができたこともあり、日常の中にもコロナ禍の時よりも職員も含め活気がでてきたと感じている。

次年度は旅行の企画を考えている。

健康状態について

加齢にともなう体調変化や身体機能低下は年々顕著になっていると感じている。嚥下、歩行など些細ではあるが着実に変化が見られている。往診医の他、専門医との連携を強化していく。

通院に関してはグループホーム職員がメインで担当しているが、人員状況によって他事業所職員にお願いすることもある。

ハックベリー総括

ハックベリーにおいては、2023年度新たに中堅職員、若手職員とともに新任職員がハックに配属、3名の職員を受け入れスタートを切った。従来の所属職員のフォローや新たに配属になった職員自身の努力もあり、現在チームとしてのまとまりも出てきていると感じている。

一方で職員の人事異動に関しては、中堅、新任問わず戸惑いも多く見られた。事前の説明不足、段階を経て異動先の業務になれていくような取り組みが不足していたことなどがポイントとして挙げられる。ストレスなくやりがいをもってホーム業務に従事できるようなフォロー体制と方法を確立すべく2024年度は取り組んでいきたい。

利用者に関しては、かわらず新型コロナに感染される方も続いてはいるが、感染の拡大は阻

止できている。ナース、デイとも連携をとり今後も対応していきたい。

明るイトピックスとして、コロナ禍において3年中止していた長時間外出支援を再開できたことが上げられる。ハックベリー、ベル合同でUSJへ。外出そのものの評価は別途必要ではあるが、ひとまずコロナ禍以前の取り組みが再開できたことを評価したい。今後も一日外出を継続するとともに、利用者に応じた行先や取り組みのブラッシュアップを行っていきたい。

重大なトピックスとして、利用者の転倒による骨折事故が一年のうちに2回も起こったことが上げられる。2回とも手術、入院を伴う事故であった。1回目はご自宅での転倒、2回目はハックベリーにて起こった。基本に忠実でない介助が日常化していたことが明るみに出た事故であった。この件に関してハックベリー職員で現状の介助方法の確認、見直しを実施。次は絶対に同じミスを犯さないことを目標に、現在も対応を継続中である。

ハックベリーの今後のテーマとして、利用者の親の高齢化、利用者自身の高齢化にどう対応していくかを上げたい。

各利用者について、ご両親を亡くされ365日ハックで過ごされる方が2名、その他の方も年々、自宅に帰る日数も減ってきており、利用者がホームで快適に楽しく過ごしていくためにはどうしていけばよいか、という課題に真剣に向き合っていく時期であるといえる。利用者に対する取り組み、環境の整備など課題は多い。

親なきあとの生活、といった話はどうしても重い話になりがちであるが、利用者各々が楽しく年を取って、その時その時の人生を充実したもののお手伝いとその伴走者として、職員自身も楽しむ気持ちをベースにしてほしいと願う。それは、ホーム職員の責務であるとともに、ホームの仕事の大きな醍醐味の一つであると思うからである。

1. 職員体制

管理者 1名

サービス管理責任者 1名（生活支援員兼務）

生活支援員 9名（常勤兼務） 世話人 5名（常勤兼務 1名、非常勤 4名）

ヘルパー派遣 38名（サポートセンターめい）

2. 利用状況

入居定員 6名 入居者 6名

延べ利用人数 1,974名（稼働率 89.9%） 営業日 366日

3. 主な活動

1) 日中支援

- ・通所先との連絡調整、余暇支援調整、買い物外出支援
- ・往診医との連絡調整、専門医の通院調整

2) 余暇支援 室内イベント 個別外出

3) 避難訓練（短期入所事業との合同訓練）

11月参加者 8名（内、職員 3名）（深夜想定訓練）

4. 主な派遣研修・会議等

- ・ハックベリー職員会議（年12回）

5. アクシデント

- ・介護11件 ・服薬7件 ・物損7件 ・連絡調整1件 ・その他5件
合計31件

*骨折、入院手術に至る転倒事故が1件起きている。そこに至るまでに同じ利用者において軽微な転倒が数件見られた。介助、見守りの基礎がおろそかになったことが重大なアクシデントに繋がったと考えられる。同じような軽微な転倒が起ったというアラートを見落とししていたことも重大な事故を防げなかった大きな要因といえる。

ベル事業総括

中堅職員1名の人事異動があったが大きな混乱もなく、前年度に引き続き職員全体でホームを支える環境づくりを心がけた。リーダーから昇格した主任を中心とし、職員個々からの意見を吸い上げることができるよう話し合いの場を設けた。職員の個性、得手不得手、戸惑い等がみられる場面もあったが、それぞれが声をかけあい、お互いに協力できるチーム作りができていたと感じる。

コロナが第5類になったことで、すこしずつ外出規制も緩和した。感染予防に心がけつつも、USJへ行けたことは利用者にとっては久しぶりの遠出と楽しみ、職員にとっても利用者とともにリフレッシュする機会になったと感じている。外出に対しての見立て等の甘さもまだあるが、徐々に回数を増やし、利用者も職員も外出に慣れていきたい。

利用者の人権にかかわる問題提起をおこない、会議で話し合う機会を設けた。それぞれの意見が間違いではなく、価値観の違いを受け入れ共有し、現場にどのように反映するかに時間を割くようにした。利用者と職員のトラブルも前年度に引き続きみられており、今後継続されないよう、さらに検証していく必要がある。

今後の課題として、利用者の高齢化、利用者ご家族の高齢化があげられる。利用者が大きな病気に罹患された場合、その時の判断はどのようにすべきか。また親なきあと、利用者をとりにまく残されたご家族がどのように利用者個々を支えていくのか。そしてホーム職員としてどのように支えていくのか。話し合いはできていても、実際目の前にそのような状況がさしかかると、混乱が生じる部分も多々あると推測する。そのようなことがないよう、今あるご家族との関係をさらに丁寧に築いていきたい。

1. 職員体制

- 管理者1名
- サービス管理責任者1名（生活支援員兼務）
- 生活支援員10名(常勤兼務9名 非常勤1名)
- 世話人9名(常勤兼務3名、非常勤6名)
- ヘルパー派遣 34名（サポートセンターめい）

2. 利用状況

- 入居定員6名 入居者6名

延べ利用人数 2,081名（稼働率 94.8%） 営業日 366日

3. 主な活動

- 1) 日中支援
 - ・通所先との連絡調整、余暇支援調整、買い物外出支援
 - ・往診医との連絡調整
- 2) 余暇支援 室内イベント 個別外出
- 3) 避難訓練 10月参加者9名（内、職員3名）

4. 主な派遣研修・会議等

- ・モチベーションマネジメント(8月) 1名
- ・強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）(8月) 1名
- ・利用者の声を聴く（9月）1名
- ・強度行動障害支援者養成研修（実践研修）(12月) 1名
- ・ベル職員会議（年12回）

5. アクシデント

- ・服薬管理 12件（服薬抜け3件 落下薬3件 薬管理2件 服薬遅れ1件誤薬3件）
- ・介護 6件（転倒2件、怪我4件）
- ・物品管理 12件（備品破損5件 備品紛失1件 金銭紛失1件
施設書類管理不足 1件 食品管理3件 洗濯管理1件）
- ・連携ミス 1件（往診 Fax 不手際1件）

計 31件

*服薬管理に関して、依然として落下薬は継続し、職員の連携ミスによる服薬ミスも継続してみられる。利用者個々の体調に直結する問題であり、職員個々の認識の甘さが顕著に表れている。またホーム内での転倒や怪我也継続してみられている。転倒に関しては、利用者個々の身体能力も考慮しつつ、ホーム内環境も整えていくようにしたい。ベルも10年が経過し備品や建物に劣化している部分もみられている。大きく破損する前に物品の交換等を実施していきたい。

居宅支援事業 サポートセンターめい 事業報告

【総括】

新型コロナウイルスもまだまだ収束とまではいかないが、感染症法上の位置付けが5類感染症になった中で、感染予防・対策に注意しながらの支援を提供することで、主に外出支援（行動援護・移動支援）では前年に比べて増加傾向が見られた。ホーム・シェアハウスの支援は安定しており、大きくは増減することはなかった。訪問系のサービスは職員の減少に伴い1名の方が契約終了となったが、新たな事業所に引き継ぎを実施することによって、支援事態は継続することが出来た。職員体制では、男性職員しかおらず女性の支援に関してフォローアップが出来ていなかったが、年度後半にはサービス提供責任者が中心となって、女性職員と居宅担当者会議をすることで、情報の共有や課題を呼び起こすことができた。少し改善されている面はあるが根本的に居宅専属職員が少なくサービス提供責任者が介護支援に入るケースが多いため、情報の遅滞や育成に時間をかけることが出来ず、また支援と特性上、支援中の状況などが把握しづらく孤立しやすい状況もなかなか改善が出来ておらず、今後の居宅支援としての展開をどのようにしていくかが課題となった。

1. 職員体制

管理者1名（兼務） サービス提供責任者2名

職員36名（常勤）

登録ヘルパー2名 事務員1名

2. 事業内容

居宅介護：重度訪問介護：行動援護：移動支援

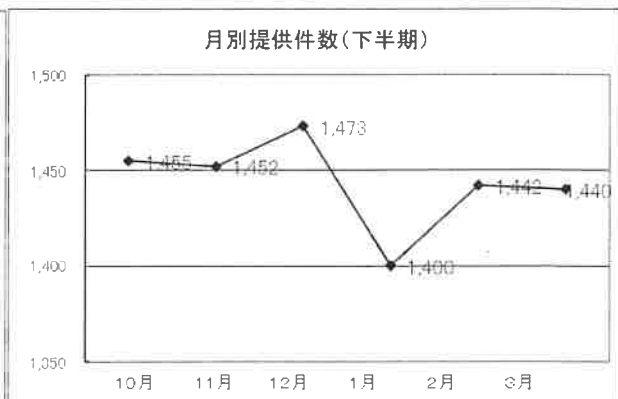
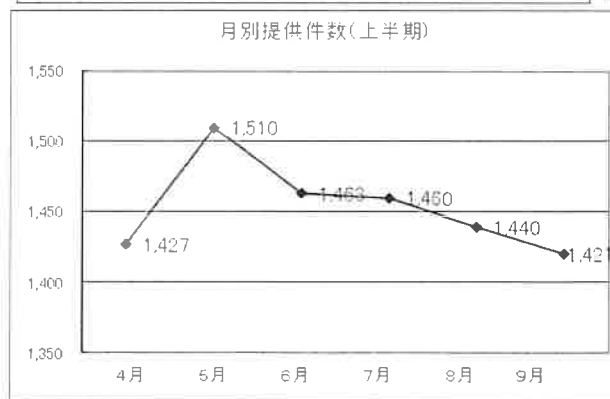
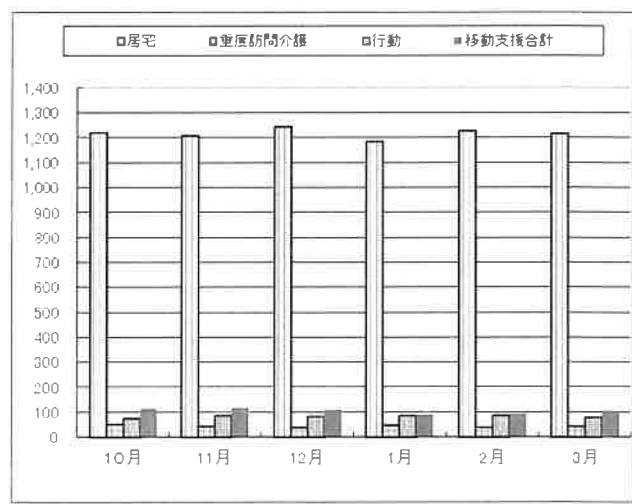
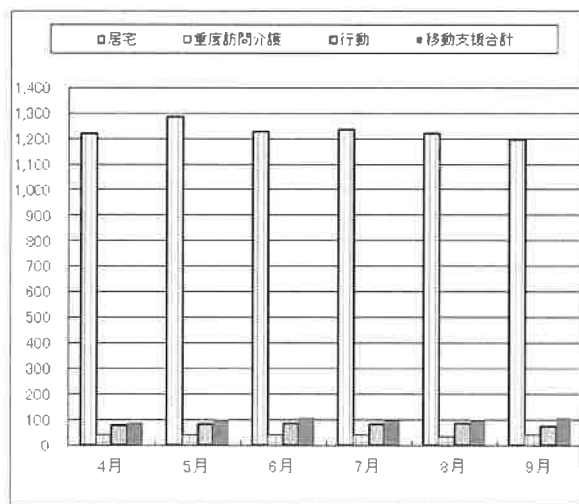
3. 利用者概要 登録60名（うち児童0名）

性別 / 年齢	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～	平均年齢
男性	1	5	5	12	5	0	39.2歳
女性	0	9	9	9	4	1	37.9歳
合計	1	14	14	21	9	1	38.5歳

4. 居宅支援状況（支援時間数）

上半期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期
居宅介護	1,315.7	1,388.4	1,315.6	1,289.3	1,327.6	1,302.5	7,939.1
重度訪問介護	171.0	173.0	166.0	175.5	173.5	172.0	1,031.0
行動援護	236.8	240.3	253.6	233.1	219.2	225.5	1,408.5
移動支援	211.5	215.5	284.8	226.8	246.3	257.5	1,330.8
	38.0	37.5	37.5	36.0	31.5	39.0	205.5

移動合計	249.5	253.0	322.3	262.8	277.8	296.5	1,661.9	
総合計	1,973.0	2,054.7	2,057.5	1,960.7	1,998.1	1,996.5	12,040.5	
下半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期	年間計
居宅介護	1,371.7	1,350.9	1,338.7	1,263.1	1,304.2	1,312.3	7,940.9	15,880.0
重度訪問介護	209.0	166.0	159.5	191.0	162.5	168.0	1,056.0	2,087.0
行動援護	206.7	240.8	224.8	208.6	219.9	214.3	1,315.1	2,723.6
移動	267.6	290.4	227.8	193.9	209.6	253.8	1,443.1	2,885.5
支援	31.0	31.0	32.5	38.5	38.5	33.0	204.5	424.0
移動合計	298.6	321.4	260.3	232.4	248.1	286.8	1,647.6	3,309.5
総合計	2,086.0	2,079.1	1,983.3	1,895.1	1,934.7	1,981.4	11,959.6	24,000.1
	居宅介護	重度訪問	行動援護	移動支援	総合計			
2021年	15,985.2	2,215.4	2,580.9	3,030.3	23,811.8			
2022年	15,880.0	2,087.0	2,723.6	3,309.5	24,000.1			



障害程度区分による利用状況一覧

居宅介護					
区分	児童	区分3	区分4	区分5	区分6
時間数	0.00	95.00	37.70	2,036.20	13,711.10
件数	0	95	17	2,282	12,291
平均支援時間	0.00	1.00	2.22	0.89	1.12

区分	重度訪問介護			行動援護		
	区分4	区分5	区分6	区分4	区分5	区分6
時間数			2,087.00	0.00	147.90	2,575.70
件数			496	0	52	920
平均支援時間			4.21	0.00	2.84	2.80

5. アクシデント

アクシデント総数：5件

介護0件、物損1件、紛失0件、物品管理1件、服薬0件

他傷0件、連絡調整0件、遅刻3件、その他0件

アクシデント総数は減少しているが、物品管理では外出中に呼吸器のエラー音の音が小さく気づかなかつたことがあり、利用者からの訴えでチューブの外れに気づくことがあった。取扱いによっては命に係わる重大なアクシデントにつながる恐れがあった。利用者の状況も変化が見られ医療的ケアが必要なケースも増えてきており、今後はさらに丁寧な対応が必要となってきている。

6. 主な派遣研修・会議等

○派遣研修

・強度行動障害支援者養成研修（6月・11月） 4名

7. レスパイト事業

①職員体制

○管理者1名

○職員46名（正職員35名、契約3名、登録ヘルパー8名）

○事務員2名（兼務）

②事業内容

○タイムケア ○送迎 ○入浴 ○施設利用

③利用者概要（男性17名 女性25名）

（2024年3月31日現在）

性別/年齢	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～	平均年齢
男性	0	4	3	7	3	0	38.8歳
女性	0	8	6	9	2	0	36.1歳

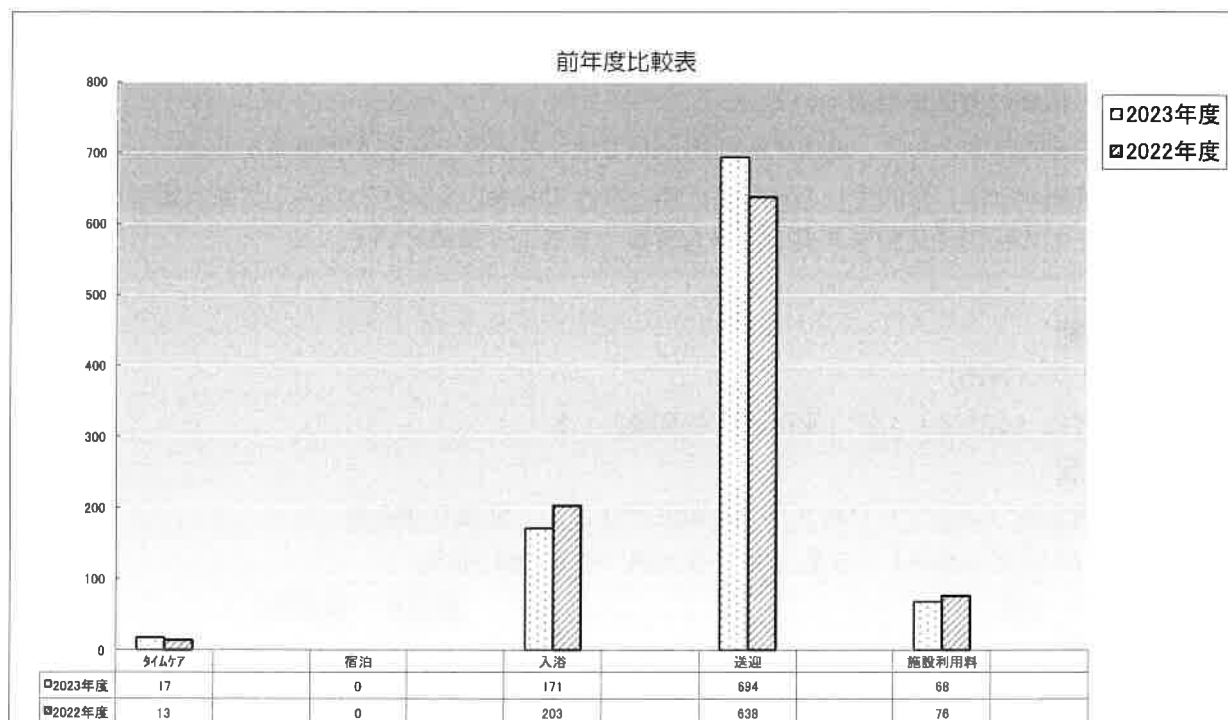
④利用状況

・利用内訳

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
タイムケア	2	1	3	3	0	3	3	0	0	1	0	1	17
入浴	13	17	14	15	15	14	15	14	14	13	12	15	171
送迎	79	75	46	52	45	53	45	66	68	65	52	48	694
利用料	5	9	2	5	7	7	7	6	4	7	4	5	68
給食	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2

・年間件数

	タイムケア	宿泊	入浴	送迎	施設利用料
2022年度	13	0	203	638	76
2023年度	17	0	171	694	68



共同住宅事業 シェアハウスはなみずき 事業報告

【総括】

はなみずきにおいては、1年を通じて大きなアクシデントなども無く、ご利用者、職員ともに概ね安定して過ごす事ができた。

はなみずきでのご利用者の生活において、まずは健康で安心して生活を送っていただける事を第一に考え、ご利用者個々のニーズにも可能な限り細やかに対応してきた。一定の成果が見られるケースもあり、ご利用者との信頼関係も深まっている実感がある。開所3年を経て、ご利用者それぞれのペース、過ごし方という物が確立されてきているようにも感じており、今後ともご本人の意思その個別性を大事に考えていきたい。

その反面で空床になっている一般住戸2床について、今年度中の満床を目標として取り組んできたが、受け入れ、支援を提供できうるための職員体制が整わず未だ空床のままになっており課題のままとまっている現状がある。

次年度に向けての展望として、事業所に新たにリーダーを配置、リーダーを中心としたチーム作り、職員の育成を進めていく。

また、空床のままとまっている一般住居2床についても、職員体制の整備を進めながら、満床を目標に事業所の体制の整備を進めていく。

最後、事業運営体制として、地域生活部門としてはなみずきと居宅支援事業所サポートセンターめいを同じ枠組みとし、合同チームとして一体となって今後のシェアハウス、居宅支援に関する事業運営についての検討や展望を共有しながら支援できるよう進めていく。

1. 職員体制

管理者1名（兼務）

生活支援員（宿直者）4名（兼務） 事務職員1名

2. 利用状況

入居定員5名（シェアハウス3戸・一般住戸2戸） 営業日365日

入居者（シェアハウス） 3名（2022年4月～）稼働率68%

一般住戸 0名 稼働率 算定無し

3. 主な活動

1) 日中支援

- ・通所先との連絡調整、余暇支援調整、買い物外出支援
- ・専門医の通院調整

2) 避難訓練（短期入所事業との合同訓練）

11月参加者 5名（内、職員 3名）（深夜想定訓練）

3月参加者 4名（内、職員 2名）（朝想定訓練）

4. 主な派遣研修・会議等

- ・はなみずき職員会議（毎月1回）

5. アクシデント

- ・介護 2件（怪我1件、転倒1件）
 - ・物損 5件（私物破損2件 食器破損3件）
 - ・失念 5件（情報伝達漏れ5件）
 - ・その他 4件（衣類間違い4件）
- 合計 16件

*件数としてはやや減少しているが、情報の伝達・共有が十分でなかった事に起因するアクシデント、入浴介助中の受傷、与薬を誤って行ってしまうという、重大なアクシデントに繋がりがねない案件が発生している。

また、ご利用者様の物品の管理について、インシデントとしての衣類の調整の不備や備品の破損といった事は散見しており、引き続いての改善への取り組みが求められる。介護面では体調不良、感染症発症など緊急を要する対応などが複数あったが、いずれも速やかに関係者への報告、医療機関への受診など対応が取れている。

今後について、先にも挙げた通りに、情報の伝達と共有についての課題があり、周知事項の確認、徹底できていない事が複数見られており、この点について、関係職員1人1人がより意識を持って改善に努めていかなければならない。

短期入所事業 サポートセンターえのき 事業報告

【総括】

職員の退職に伴い1名の方の契約が終了、1名の方に利用を休止していただいた。そのような状況の中で延べ人数が昨年度より少し上回ったのは年度末にご家族の入院に伴い緊急でお受けするケースがあり、デイサービスご利用の方だった為、対応できる職員が複数いたのでお受けすることが出来た。今後ご家族の状況変化に伴い相談件数が増えていくと思われるので、いつでも対応できるよう準備していきたいと思う。

1. 職員体制

管理者 1名 生活支援員 15名(常勤兼務)

2. 利用状況

利用定員 4名

延べ利用人数 370名 延べ利用回数 176回 一日平均 1.0名 実人員 18名

(昨年度延べ利用人数 365名 延べ利用回数 184回 一日平均 1.0名 実人員 20名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
利用人数	17	16	16	14	16	17	96
利用回数	34	34	34	28	32	34	196
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期計
利用人数	15	13	12	13	14	13	80
利用回数	31	26	24	26	37	30	174

3. アクシデント

- ・他の利用者間違えて薬を提供した。

特定相談支援護事業 えのき 事業報告

1. 職員体制

管理者 1 名 相談支援専門員 2 名（兼務）（内、1 名 8 月より産休へ）

2. 利用状況(年間)

実利用人数 45 名（内、1 名 3 月にて契約解除）

- ・日常生活全般に関する相談 19 件
- ・地域の障害福祉サービス事業所等の情報提供 2 件
- ・指定計画相談 43 件
- ・モニタリング 45 件

3. 主な派遣研修・会議等

- ・法人職員研修、法人職員会議（5、11、3 月）
- ・計画相談策定のためのカンファレンス開催
- ・今後の生活に向けたカンファレンス開催
- ・相談支援スキルアップ研修

